

平成25年度 消防本部 経営計画書

部署名	消防本部
役職・氏名	消防長 柴田 佳明



● 部の使命
 災害形態は複雑多様化し、更には大規模な地震の発生が懸念されるなか、被害を最小限にとどめるため迅速かつ的確な消防活動を実施し、消防・救急体制の充実強化・防災意識の啓発を行い市民の大切な生命・財産を守ります。

● 部の基本方針
 ①防災意識の高いまちを目指して、消防施設の整備を図ります。
 ②防災意識の高いまちを目指して、災害現場での署員個々の防災対応力と各隊の連携強化を図ります。
 ③防災意識の高いまちを目指して、引き続き住宅用火災警報器の全戸設置に向け啓発活動を続けます。
 ④防災意識の高いまちを目指して、地域防災力の向上と事業所の防火保安管理体制の充実強化を図ります。
 ⑤質の高い医療が受けられるまちを目指して、救急業務の高度化と救命率の向上を図ります。

● 平成25年度 部のスローガン 創造性の発揮

部署内経営資源				
構成人員	正職員	臨時職員等	計	当初予算 (うち人件費)
	69人		69人	1,018,488 千円 (500,573)千円

消防本部 重点事項

重点事項	具体的な取組内容	成果目標	進捗状況 (9月末現在)	進捗状況 (1月末現在)	達成状況 (3月末現在)
1 消防施設の整備 【警防課・通信指令室】	大規模な地震災害によるライフラインの損壊に備え、消火活動や飲料水の確保をするため大型の耐震性貯水槽の整備を進めます。また、災害時に信頼性のある通信確保のため、消防・救急無線のデジタル化整備工事を行います。	・消防水利の充足率向上 設置場所 邑久町尾張地内に 100t 1基 ・無線：今年度中に整備工事を行い、運用を開始	・設計完了 ・工事開始11月予定 ・無線：整備工事の進捗率40%	・設置工事の進捗率50% 工事完了3月上旬予定 ・無線：整備工事の進捗率90%	・耐震性貯水槽設置 工事完了 ・無線：整備工事の進捗率100% 4月1日運用開始
2 市街地・密集地に適した消火活動の推進 【消防署】	隊員個々の知識、技術の向上と各隊間の意思疎通と連携を強化し、災害発生時には、迅速的確に対応し、被害を最小限に抑えます。また、訓練を通して消防団との連携強化にも努めます。	放水開始時間の短縮 水出しまで1分以内 図上訓練 週1回以上 想定訓練 月1回以上 現地訓練 年4回以上	達成率50% 50% 50% 3回 75%	達成率70% 70% 80% 5回 125%	達成率80% 80% 90% 6回 150%
3 住宅防火対策と事業所の防火保安管理体制の充実 【予防課】	住宅火災の早期発見・被害軽減が期待できる住宅用火災警報器の継続設置指導として、市内全戸の訪問調査を実施し、特に災害に弱い高齢者世帯などにはきめ細やかな指導に努めます。 事業所の査察計画を作成し、防火保安管理の徹底に努めます。	全世帯 設置率90% 立入検査 事業所 130件 危険物等 50件 防火クラブ新規結成 1クラブ	住警器設置率79% 立入検査、事業所183件、危険物施設39件 新規防火クラブ1クラブ	住警器設置率79% 立入検査、事業所216件、危険物施設41件 新規防火クラブ1クラブ	住警器設置率79% 立入検査、事業所216件、危険物施設50件 新規防火クラブ1クラブ
4 地域防災力の育成強化 【予防課】	自主防災組織等の訓練指導内容の充実と訓練指導を強化し、地域防災力の向上を図ります。	自主防災組織等の訓練指導 70件	自主防訓練指導 57件	自主防訓練指導 87件	自主防訓練指導 90件
5 救急業務の高度化と救命率向上 【警防課・消防署】	救急救命士の継続養成と更なる高度な処置ができるよう認定救命士の養成と高度資機材の整備を図ります。 救急車が到着するまでに応急手当が出来る市民を増やし救命率を向上させるため、普通救命講習受講の普及推進を図ります。	気管挿管認定救命士1名、 薬剤投与認定救命士1名、 ビデオ硬性挿管認定救命士2名 普通救命講習受講者目標数：年間400人	1名 養成済み 1名 養成済み 4名 調整中 92名(23%)	1名 養成済み 1名 養成済み 4名 調整済み 112名(28%)	1名 養成済み 1名 養成済み 4名 養成済み 281名(70.3%)